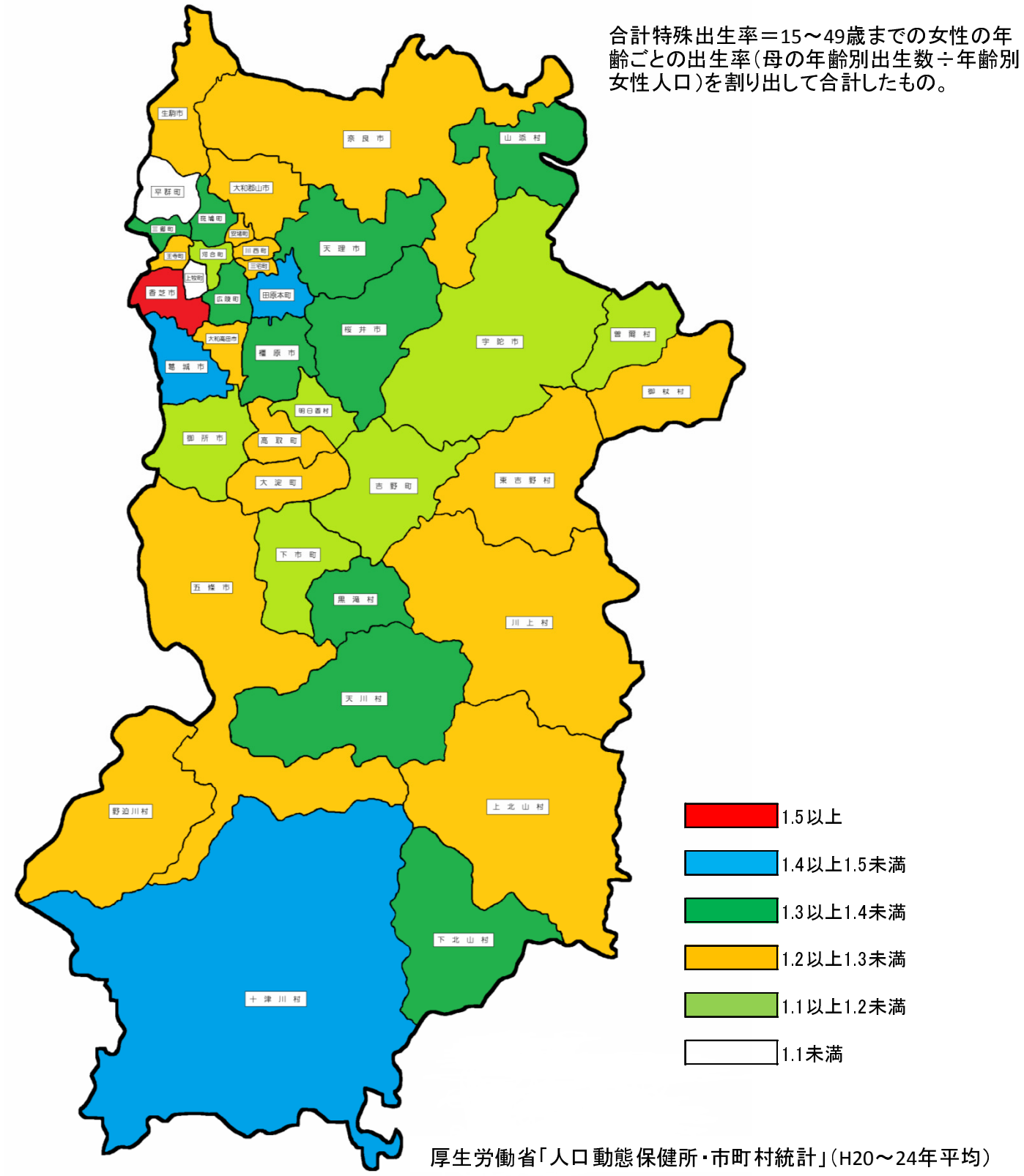


8 少子化の地域差③ 〈県内市町村比較 2-2〉

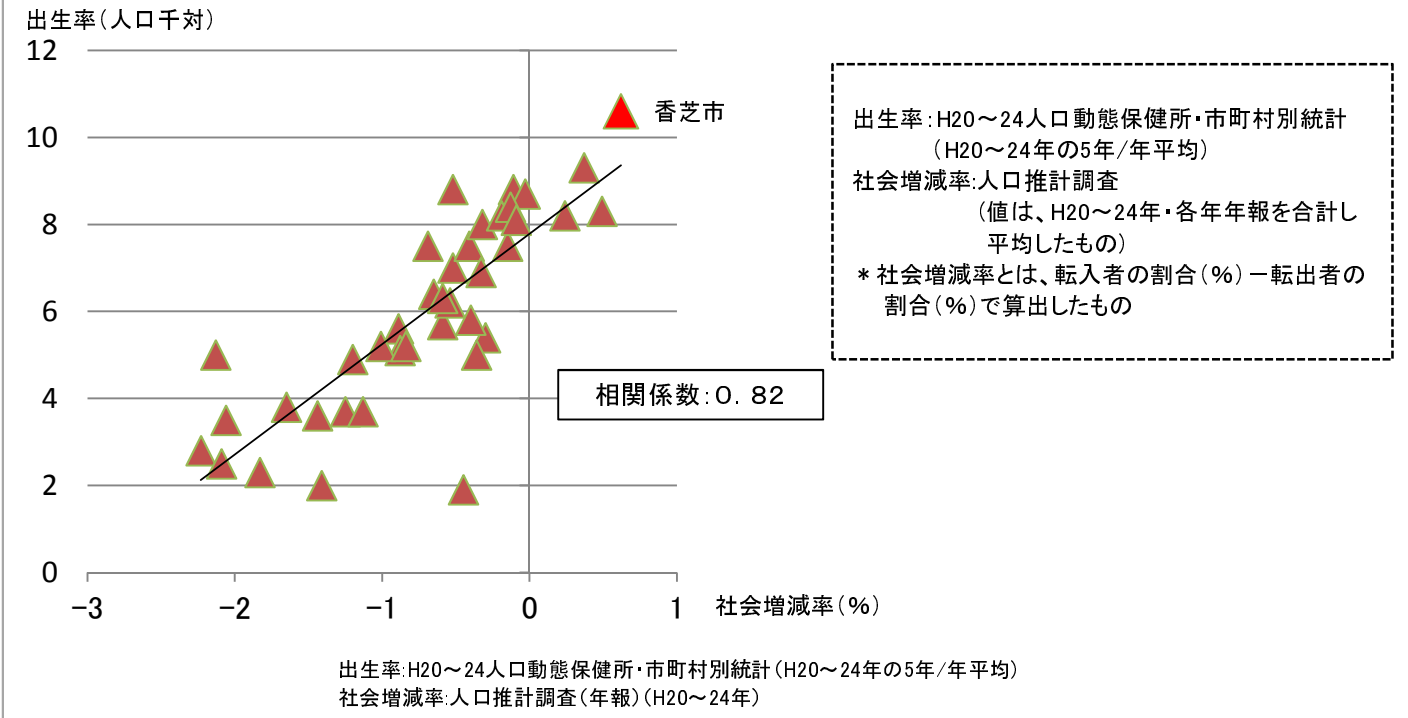
(1) 合計特殊出生率 (H20~24年平均)

○合計特殊出生率の1位は香芝市、2位は十津川村である。逆にワースト1位は平群町、2位は上牧町であり、北部・南部といった地域による偏りは見られない。



(2) 人口の社会増減率と出生率

○社会増減率がプラス方向に上がる市町村ほど、出生率が高くなる傾向。



(3) 少子化の地域差が生じる要因

◎少子化対策に関する有識者との意見交換会(H26.7.7 東京事務所)
中京大学 教授 松田 茂樹氏 より

- (1) 地域雇用
 - ①失業率が高い地域ほど出生率が低い
 - ②若い世代の非正規雇用が多いと出生率が低い
- (2) 育児期の女性の就業
 - ①女性が働いている県ほど出生率が高い。
 - ②ただし、近年の問題として女性が働いている地域ほど出生率の下落が大きい。
- (3) 親からの育児支援
 - 親が近くに居て助けてもらえる地域ほど出生率が高い。
- (4) 出産・子育てに価値を置く規範意識
 - 出産や子育てに価値をおく規範意識が強い地域は出生率が高い